陳柏劭さん（経済3）プロ囲碁棋士デビュー

2年次に採用試験合格

陳柏劭さん（経済3）は昨年末、囲碁の棋士採用試験に合格し、今年からプロ棋士として活躍している。

台湾出身の陳さんは、幼稚園から囲碁を始め、プロ棋士を目指し小学5年生で来日。2014年に日本棋院東京本院の院生になった。潘善琪八段に師事すると同時に、多くの棋士志望者がしのぎを削る洪道場（杉並区）で力をつけていった。

東京本院では毎年、夏と冬に2種類の試験が行われ、プロ棋士に採用されるのは3人程度。17歳まで（コロナの影響で陳さんの年代は18歳まで）という厳しい年齢制限もある。惜しくも院生時代にプロ入りはかなわず、院生のほかに院外の実力者を加えた冬季試験で挑戦を続けた。

大学2年次のときに外来として2度目の試験で、見事2位となり、1月から対局開始。4月に正式にプロになった。

プロ棋士として活躍する陳さん

「受験勉強と囲碁の両立が厳しかった」と振り返る陳さん。道場に週6回通い、学校の授業がないときには1日10時間以上練習を続けたほか、週2回は師匠の潘八段から指導を受けた。さらに自宅ではネット碁で研究を重ね、AIの活用も余念がない。「打った碁をAIにかけると、どこが悪かったのか、次はどう打てばいいのか示してくれる。自分では思いつかないような手もあり、刺激になる」と語る。

プロになっての戦績は9勝7敗（9月10日現在）。学業と囲碁の両立に励みながら勝利を重ね、段位を上げていき、「いずれタイトルを獲りたい」と静かに闘志を燃やす。

今夏には専大の囲碁部にも入部した。囲碁部は現在、陳さんのほかは部員1人だが、SNSで陳さんの応援を続けながら本格的な活動再開を目指している。顧問の内野明商学部教授は「トッププロを目指してほしい」と陳さんにエールを送る。

JFNラジオCMコンテスト2024

市原さん（商3）入賞

「学び舎」テーマに作品制作 TOKYO FMでオンエア

入賞した市原さん

全国の大学生や専門学校生を対象にした「JFNラジオCMコンテスト2024～ラジオに乗せて、学校アピール～」で、市原尚弥さん（商3）がブロック賞（東京エリア）を受賞した。本学商学部をPRする「18歳から」篇は、8月1日から2週間、TOKYO FMでオンエアされた。

コンテストは、全国FM放送協議会（JFN）の主催。学生自身の学び舎をテーマに、ラジオCMのコピー（原稿）を募集。今年は約3000作品の応募があり、7月18日、入選14作品が決まった。

市原さんの「18歳から」篇は20秒の作品で、2人のやりとりで構成されている。高校生が「老後2000万円問題」「NISAで資産形成」などにため息をつき、「18歳からもう老後のことか～」とこぼす。それに対してもう一人が、「18歳からは、勉強だ！　ホンモノの金融リテラシーを身につける。専修大学　商学部」と明言する――という内容だ。

マーケティングをテーマにする石川和男ゼミに所属。市原さん自身は会計学科で、ビジネスの仕組みを総合的に学んでおり、「学びの成果に、自分自身の老後への不安を絡め、あまり悩まずに書き上げた」と話す。

入賞が決まった後、プロの声優によるCMの収録にも立ち会い、ラジオ制作者ら多くの人と意見を交わした。「大いに刺激を受けた。ゼミで取り組んでいる企業・団体のPRや地方創生に、この経験を生かしていきたい」と語っている。

伊調馨さんを招き 技術指導と講習会

女子レスリング選手限定「身体リテラシー」教育プログラム

選手にアドバイスする伊調さん（左）

女性アスリート支援を目的とした「第1回女子レスリング選手限定『身体リテラシー』教育プログラム」が7月14日、生田キャンパスのレスリング場で行われた。

五輪4連覇を成し遂げた伊調馨さん（ALSOK）による技術指導と、専修大学スポーツ研究所協力研究員の木村元彦さんによる講習会の2部構成。東京都、神奈川県、埼玉県の10チームに所属する小学4年生から中学3年生までの女子選手と、専修大学少年少女レスリング教室（バイソンズ）のメンバーら約40人が参加し、技術と知識を深めた。

伊調さんは実演を交えながら、体の使い方や手足を置く位置、力を入れるポイントに加え、どのような意図でプレーするかといった細部まで丁寧に解説。「小・中学生のうちから、タックルで倒し切る意識を持とう」とアドバイスを送った。

講習会はフェアプレーがテーマで、木村さんは「第一に覚えてほしいのはフェアプレー。そのうえで、尊敬する選手からグッドプレーヤー像を描き、自分もそうなれるように意識して行動しよう」とまとめた。

法教育プロジェクト 法学部生が模擬立法に挑戦

弁護士の指導のもと、立法作業を体験する「法教育プロジェクト」が7月2日、神田キャンパスで行われ、法学部の学生12人が参加した。第二東京弁護士会と埼玉弁護士会から4人の弁護士を招き、「ヘイトスピーチ」と「ジェンダー」をテーマにグループワークを行った。

「ヘイトスピーチ」グループは、実際にあった事例や諸外国における規制のあり方などを学んだあと、ヘイトスピーチをなくすための対策を考えた。徐々に議論は白熱。ペナルティーとして刑事罰を科すか、科さないかで意見が割れ、メンバー全員で熟議した。

「ジェンダー」グループは、性別を基準に人数や比率を割り当てるクオータ制の導入でジェンダー不平等の問題を解決できるかをテーマに議論した。

プロジェクトを通じて学生たちは、異なる価値観や考え方を持つ相手と意見を交わす楽しさ、さまざまな意見をすり合わせながら一つの法律をつくる難しさの両方を体験した。グループワーク終了後には「議論を通じて新たな見識が得られた」「これまで学んできた知識をアウトプットできる貴重な機会となった」などの感想があった。

白熱した議論が展開された

専修人の新しい本

アメリカ連邦準備制度（FRS）の金融政策［第2版］

田中隆之 著

アメリカの金融政策は、昨今の超円安とその修正の動きを左右するなど、日本経済への影響も大きい。

本書は、米連邦準備制度（FRS）の金融政策を理解し評価するために必要な情報を整理し解説したものだが、初版発行から10年が経過した。この間、経済情勢が大きく変動する中で、その政策も緩和と引き締めを繰り返し、政策の枠組み自体が大きく転換しつつある。

この第2版では、2014年以降の実体経済と政策の展開を補い、政策の評価を行った。とりわけ、20年のコロナ危機への政策対応を、08年の世界金融危機時と比較しつつ、その評価を試みる一方で、「新常態」としてのポスト・非伝統的金融政策の実態と課題を明らかにしている。最終章では、現代の中央銀行が抱える諸問題を整理、指摘している。（金融財政事情研究会・税込み3080円）

著者（たなか・たかゆき）経済学部教授。金融政策、日本経済論。

緑地帯

価値観の多様性

皆さんは、“*Lagom*（ラーゴム）”という言葉を知っていますか？　この言葉は、私がスウェーデン王立工科大学で在外研究をしていた時に知ったスウェーデン語で、「ちょうどよい・ほどほど」という意味です。例えば、食べ物を数人で分ける場合、お腹がすいている人が多めに食べ、そうでない人は少なめに食べるという考え方が*Lagom*です。

日本語にも同じような意味の言葉に「腹八分目」という言葉がありますが、少しネガティブな印象を受けます。これは、日本人の考え方の根底に「我慢は美徳」という価値観があるためかもしれません。それに対して、スウェーデン語の*Lagom*は、どちらかというとポジティブな印象で、「ちょうどいいから快適」「無理をしないから心地よい」といったイメージの言葉になります。

スウェーデンで生活していた頃、「ほどほどが一番」という意味の“*Lagom är bäst*（ラーゴム・エ・ベスト）”という言葉を何度か耳にしました。多くのスウェーデン人は、多すぎず少なすぎず、その中間の「ほどほど」が何事においてもベストだという価値観を持っていて、ほどほどに働き、ほどほどにお金を稼ぎ、家族や友人と幸せな時間を共有しながら生活しています。また、この「ほどほど」という感覚は物を買う時にも反映されていて、必要な物を必要な量だけ購入するという考え方なので、買い過ぎがなく、無駄も少なくなります。毎年スウェーデンがSDGsランキングの上位に入るのも、*Lagom*という価値観の影響があるのかもしれません。

このように、世界にはさまざまな価値観が存在しています。皆さんも、大学生活の中で多様な価値観にふれてみてはいかがでしょうか？

（学生部委員・西山貴弘）